

# 技の守り人 匠会通信

越後与板打刃物匠会

No.7 8月号

## 「海外販路開拓」について周さんの講話

7月17日、ホクギン金融サービス部の周思謀(シュウスモン)さんより、中国を中心とするアジア市場の現状や期待される分野についてお話を伺った。伝統打刃物もこれからは海外を含め、あらゆるビジネスチャンスを活かす努力が必要だ。匠会久住会長は「我々もこれからは国外にも目を向け、少しでも受注量を増やすことが現状突破につながる」と、挨拶で会員を激励した。



周さんの話によれば、中国の高度経済成長期はここに来て頭打ちになり、これからのマーケットはタイを物流の拠点とする東南アジアに移るといふ。日本製品は確かに品質も素材も高レベルだが、価格設定が市場に合っていないため伸び悩む。現地の人々の所得に見合う価格設定もだいで、固定的な考えを捨て現地ニーズに合わせたものを開拓する視点が必要だと語った。また海外取引に踏み出すにはその国の留学生や研究生の縁を活用することや、ネット通販には安い物を求める客が殺到するので芸術工芸品には向かないこと、展示会を開く際の注意事項など細かいヒントが聴けた。

## 市の担当課が与板打刃物の仕事場を見学

8月6日は、市工業振興課の竹田課長以下6名が刃物製造の現場を一日かけて見学した。鉋、鑿、彫刻刀、包丁の製造工程や、研ぎの工程、柄入れの工程等、熱心にメモや写真を取り質問をしながらの巡回だった。

鉄と鋼を叩いて鍛える、何度も赤らめて叩いて伸ばす、伝統的工法での手作業には「実際見てみると想像以上のものがありました。機械生産とは違って本当に一つひとつ手間がかかって気の抜けない仕事ですね。」と初めて見る職人仕事に驚いた様子。



研ぎの工程を見せてくれた高木順一さんの工房では、「やってみるかね？」とすすめられ実際にグラインダーに向かって、研ぎの指導を受けるひとコマも。協力いただいた各位にお礼申し上げます。